食と農の学習交流会の報告

日時　２０２６年2月２８日１３：３０～１６：１５
場所　伊勢原中央公民館
参加者　３２名（スタッフ７名）
主催　タネと水を守る県央市民の会、
　　TPP とグローバリズムを考える市民の会
共催　いせはら環境ネットワーク

内容

いせはら環境ネットワーク代表から
農業はやり方次第で環境保全にもつながるし、環境破壊にもつながる。環境団体のネットワーク組織である当会では、環境保全を進める観点で、環境保全型農業を推進し、そのための情報提供、意見交換を進める意味で、この会の共催団体になっている。

市民援農者から「日本の農業の未来」
最近の農業について説明する。主に鈴木宣弘教授の「食の戦争」「令和の米騒動」「コメショック」。堤未果氏「食が壊れる」。国（農林水産省など）のインターネット情報。伊勢原市との情報交換会の情報（タネと水を守る県央市民の会の HP に掲載）が根拠だ。時間がないため断定的に語るが詳しくはそうした情報に当たってほしい。

本論

・　農家がいなくなり、日本のお米が高級品になり庶民が食べられない状況が迫っていると感じる。
・　その原因は外圧によるもの。食で日本人を支配しようとする外国（特にアメリカ）の勢力の力によるもの。そのため日本の食料自給率は下げられた。
・　最近の農政について。農業の憲法と言われる食料農業農村基本法が、外国に食依存を安定させることが国の農業の基本的な方針になった。
・　食料供給困難事態法は農政版の緊急事態条項で、緊急事態を理由に国が農業を支配しようとしている。日ごろから農家を安定的に支えて、農家を守り、食料を安定供給できる政策がほしい。
・　スマート農業は IT 企業による農業支配、ドローンでの農薬散布もする。警戒している。
・　みどりの食料戦略は、有機農地の増大、化学農薬や化学肥料の減少など謳っており好ましいが、一方スマート農業推進であり、危険も含んでいる。
・　環境と農業に関しては、以下の意見。

1　何よりも環境保全型農業をやる気になって取り組む人間が必要。
2　環境保全型農業がなぜいいのか周知していく必要がある。健康と農薬の関係など。
3　環境保全型農業は地区で取る組むことが好ましい。オーガニック地区を作る必要がある。
4　環境保全型農業を推進するためには、有機食材給食とセットが好ましい。できた農産物を給食で買い上げる。生徒さんへのオーガニック農業の理解の推進にもなる。
5　３と４から考えると市役所や市長の理解と意欲や推進力が欠かせない
6　５のためには多数の市民の理解と訴えが必要になる。
7　環境に優しい農業を進めると言う観点でも農薬のドローン散布を進めるスマート農業は環境保全型農業とは言えない。国は「みどりの食料システム戦略」にスマート農業を入れているがオーガニックでないと思

われる。スマート農業には反対し、警戒する。

8　広域農地の環境保全型農業推進の知識、技術は、千葉県いすみ市など、日本全国に環境保全型農業を進めた先人や伊勢原にも環境保全型の農業を進めてきた先人から学ぶ方法もあり得ると思われる。

・　高市政権の農政は農林水産省 HP（2025 年 10 月）によれば、以下。（鈴木農相に指示した高市首相の言葉）

1 点目は、食料・農業・農村基本法に基づき、食料安全保障の確保等を推進。完全閉鎖型植物工場や陸上養殖施設等を展開をし、また、米の安定供給を推進するということ。

2 点目は、農業構造転換集中対策期間に集中投資を実施するということ。

3 点目が、2030 年に今 1.5 兆円の輸出、これを 5 兆円の輸出目標に向けて、これを実現するということ。

4 点目は、人口急減地域への支援を強化するということ。

話者が思うに、1 海外への食依存中心、しかも工場型農業などは好ましくない。2 農業の構造転換＝農家切捨て？3 輸出より自給率向上でしょう。など疑問が多い政策。

・　この会で、食物自給率と食の安全や環境保全型農業の向上のために、新規就農者の増加、市民の農作業増加、などを探っていきたい。

伊勢原市は、秦野市の市民の段階的な農業参加の方法（「農的な暮らしを始める本」参照。）を進めてほしい。

農家による意見

農業は切り捨てられてきた。外交上で自動車産業の発展が優先されて、代わりに農業が弱体化しアメリカに脅かされ続けてきた。

政府には期待できない。地域で、知っている者同志が、農業や食を守る体制を作っていくべきだ。

近隣でのコミュニティー、顔の見える関係でのやり取りが必要。

日本政府はアメリカの言いなりだった。TPP 締結後より農業はより弱体化進み、現在経営としての農業・特に小さな兼業農家は成り立たない状況だ。約 9 割強の兼業農家が廃業したらその地域に合った農業技術は途絶えることになる。

データーだけで農業はできないと、私は思う。植物・動物にも意志があるで・・。

地域で、知っている者同士が、地産地消の農業や食を守る体制を作っていくべきだと思う。

（お金だけではない物々交換でも生活できるような共同体）

農作業を手伝う、そのお礼に野菜やお米をもらうような関係を作りたい。昔の日本の村を戻したい。

新規就農者

・　山梨の米農家で実習をした。その時、田んぼにいるだけで幸せな気持ちになった。でも米農家の収入は少なく生活できないと言われた。大変さも見た。それで別な仕事に就こうかと思ったが、今米もやる農家になった。

・　米については作り方が確立している。機械は便利だが、作り方を自分なりに工夫していく楽しさは失われていると感じる。

・　農薬、肥料、機械を使えば便利だが、その分費用も掛かり、ローンを組む必要がある。逆にそれを使わなければ手間は大変だが、お金はかからない。

・　150 万円を 3 年間支援してもらえる。地域の先輩方からのサポートも手厚い。

・　機械を買うなどローンを組むので、アルバイトをして定期収入を得ている。

・　新規就農者になって、農地がいろいろな制度で守られてきたことを実感した。簡単に貸してほしいと思うが、農地が守られているから、簡単に借りられない、人物、国籍、3 年間の計画を確認される。

・　集落の水路整備で山が管理されてきた。

・　スマート農業でＡＩのデーター管理しているのは軍事的に土地を管理することを率先しているのか？

・ 伊勢原では有機のお米をつくる圃場が増えていると感じる。
・ 新規就農者も増えていくと感じる。
・ 苗作り、堆肥つくり、炭作りの信頼できる専門家がいたらいいと思う。
・ 結婚して農家は厳しいし、周囲の理解がないとできない仕事だと思う。
・ 新規就農者は増えてほしいし、増えると思っている。

会場での意見交換

・ 60 歳から農学校、農園を始めて、やっている。自然・有機栽培の農園を神奈川県厚木市で 12 農園、愛川町で２農園、で、有機農業を学びたい方のために農学校を、都市（厚木市)、地方（湯沢市)、海外（ハワイ島）に開校。
・ 日本は単位面積あたりの農薬使用料が世界一、発達障害なども増えている。
農場には学校に行かない子どもや職場から引きこもる方も来ているが、農作業した後は笑顔が増えたと思う。夏も熱く、農作業は厳しいと思われるが、学校の先生や企業に就職が決まった 3 人の若者が「農業を学びたい」と相談に来た。「クーラーの効いた部屋で収入も安定した仕事がいいのではないか」と伝えたが、「農業をやりたい」とのこと。農業の道に進みたいと内定を辞退して研修生となる決断をした。一方、新規就農者で途中でやめる人もいる。新規就農者は申請すれば年間 150 万円を 3 年間支援を貰えるが、途中で農業をやめると、そのお金を返さなければならない。農業でうまくいかないのに、数百万のお金を返すことは困難で夜逃げしている人もいると聞く。
しかし食料を多く、外国の輸入に頼っており、海外情勢で食料が来なくなる可能性もあり、神奈川の食料自給率は２％、東京は０％で危険な状況。そうした中、私は農業はなくてはならない産業と思う。
・ 新規就農者の方の話で、若い新規就農者が増えると言う理由を聞きたい。
・ 今までは長男が継ぐやり方だった。農業は採算が合わないため、危機的な事態になっている。農家が減れば、農産物は貴重品になり、売れるため継続的に農作業ができる。
・ 農業は大変だが魅力や夢があり心が満たされる。殺伐とした世の中で自然豊かな中の仕事でやりがいがある。
・ 機械が高額だったりいつも使わない場合もあり、農協を中心として農業機械を共有する方法があればいいと思う。
・ いすみ市のやり方を学びに研修に行ってほしい。
・ 前市長はいすみ市に研修にいった。新市長にも伝えたい。
・ 農業は楽しいか。
・ 水田に立つだけで満たされる。
・ 私は農家でなく農業者の大変さはないが 20 年以上援農で農作業して「楽しい」と言い切れる。
・ 現状は厳しくあきらめるしかないのではないか？
・ 諦めたら確実に、そこで終わり。悪い方に流される。状況が悪い中で何ができるかを考える。現状、まだ、自分で援農して収穫することはできる。また黒人の方々は以前アメリカなどで奴隷だったが、今は音楽やスポーツで活躍している方々が大勢いる。自分もたびたび落ち込むが、あきらめてはダメだと自分に言い聞かせている。
・ 私は山田正彦氏の講演を聞いてショックを受けて、農作業をやるしかないと思い、普通は農作業を引退する年から始めた。4 年くらいだ。体はきついが、自然と触れ合うことは良い。最近は大学生の孫と友人が手伝ってくれる。１泊で来て手伝ってくれたとき、夕食をふるまって「何がおいしいか」と聞いたら、「ブロッコリー」と答えた。ただ茹でただけのものだが、新鮮な有機の野菜のおいしさを感じたのだと思う。それは食べてみれば誰でも分かる。また、農作業もやってみて、土地が良いのかもしれないが、誰でもやればできると感じている。

- 農協系の畑をやってきている。ブロッコリーも種で栽培している。最近は獣害がひどい。耕作放棄地が増えると獣害が増える。
  農業は自動車産業の犠牲にさせられてきた。長年の間にオレンジの自由化、米のミニマムアクセス米などが進んで農業が弱体化した。最近の高市政権の農政はどうかと思い見ているが、2026 年度予算をみて愕然とした、スマート農業技術導入の予算が 25 年と比べて 95.5 倍の増加。農業の大規模化予算が 39%増加。農業の輸出に関する予算も 68.1%増加。鳥獣被害対策費はプラスマイナス０、軍事費は膨大に増やしている。
  現在の農家を守らず、農家が農地から手を引けば、農地は荒れ地になり、鳥獣被害も増加する。農業の大規模化が問題を起こす。農業に若者に参入してほしい、３Ｋ と言われている。外国人労働者の助けがなければ、いけない状況。
- 予算では防衛費は大盤振る舞い。農業に国として予算を出してほしい。
- 農業に携わる者からの発言。
- 農業は、サラリーマンのようにばらばらな仕事でなく、家族みんなで動けるのが良いです。私も私の両親も手伝ってくれます。
- スマート農業に関しては農薬散布など問題があり反対の立場です。
- 法律改正して農業に企業が入りやすくなっている。
- 耕作放棄地に関する援農については、地域で農家を支えていくために、信頼関係が必要、定期的に買ってくれることも必要です。
- 野菜は規格外の野菜も購入してほしい。消費者は野菜にきれいなものばかり求めず、形の悪いものも買ってほしい。
- みかんの木や水田のオーナー制度があるのでそうしたものも市民が農業に関わる方法だと思う。
- べじたろうさんの農場で有機農業の研修もできるし、農家になる道もできる。
- 環境保全型農業に取り組むことや耕作放棄地の再生も必要。熱い時期の水不足を考えると陸稲の検討もいいと思う。
- 農地や環境を思えば、スマート農業などの大規模農業が解決策とは思わない。農家と援農をする人達の生活を保障する取り組みがあればいいが。
- 最近の農業については量子力学の分野から解明されてきている。大豆の根粒菌、大地の微生物、人間の腸内微生物、土の団粒構造などは関係している。有機農業や自然農法も科学的根拠がはっきりしてきている。伊勢原ジャンクションの整地で 3200 年前の緑色の木々の葉が出土している。波動を出している。縄文時代の生活は年齢は、30～40 歳と聞いている。行動範囲は２ｋｍ範囲だった。
  新規就農者も出てきてうれしい気持だ。今、伊勢原市では、農業の地域計画を行政とともに農家の声を交えて、ブラッシュアップされてきている。来年度か再来年度に出す予定。新時代の農業が始まる。ルールを守って有機農業や自然農の農法に参加しよう。みんなが健康でいられる環境を作ろう。

以上